

第 8 回

佐世保市地域福祉計画推進委員会

議 事 要 旨

日時：平成30年8月8日（水）18：30～

場所：佐世保市中央保健福祉センター 8階 講堂

（出席委員）

西委員、榊原委員、林委員、川内野委員、杉本委員、池田委員、土井委員、川原ゆ委員、川原玲委員、川嶋委員、迎委員、村山委員 [12名]

（欠席）

嬉野委員、森委員

（事務局）

○佐世保市

保健福祉部長、保健福祉政策課、医療政策課、長寿社会課、障がい福祉課、生活福祉課、子ども政策課、コミュニティ・協働推進課、各課員

○佐世保市社会福祉協議会

常務理事、事務局長、地域福祉課 課員

■開会

■会議成立の確認

1. 委員長あいさつ

2. 議事

■資料の確認

■情報公開の確認

(1) 第2期佐世保市地域福祉計画・佐世保市地域福祉活動計画に基づく平成29年度実施事業の評価および全体評価について

◎西委員長

議事1について、評価の考え方、論点整理について、事務局より説明の後、各事業説明をお願いします。

■事務局（市：杉本）

[資料2：第2期佐世保市地域福祉計画・地域福祉活動計画 取組み評価一覧表（案）]

[資料2-1：第2期地域福祉計画評価に係る論点整理]

- 資料2の一覧表の見方と評価基準については、左から「実施結果の分析と今後の対策」までを市・社協が記載している。「評価コメント」「評価点」は、市・社協が記載した取組み状況を勘案し、委員会として記入してもらう部分であるが、現在、事務局が案を記載している。これらの内容について確認、委員会としての評価を頂きたい。
- 評価点の考え方については、資料2-1、下段の「達成度平均値」「評価コメント」の内容から「事業ごとの評価点」を1～5の点数で付けていただく。
- 事業ごとの評価点については、5「目標達成できている（数値目標90%以上）、かつ大きな成果を伴う特筆すべき点がある」。以下資料2-1の下段記載のとおり。
- 資料2の4ページの右下に「総合評価B」と

記載しているが、この総合評価の考え方は、資料2-1裏面記載のとおり、「個別支援」「小地域支援」「地域福祉活動」「その他の取組み」の4項目ごとに、A～Dを基準として評価し、案を記載している。

■事務局（社協：富永）

[資料2：第2期佐世保市地域福祉計画・地域福祉活動計画 取組み評価一覧表（案）]

[当日資料1：生活困窮者自立相談支援事業、日常生活自立支援事業に関する補足資料]

[当日資料2：第2期佐世保市地域福祉計画・地域福祉活動計画の成果と課題について]

≪個別支援について≫

- 1ページ、「話し相手ボランティア事業」は、年次計画の目標値どおり概ね達成できている。新規依頼者数も民児協の定例会や介護事業者等の説明により達成できているが、ボランティア登録者数に対して活動件数が伸びていない。施設の行事の補助、交流、障がいの方の付添い等の活動を紹介し、実践活動につなげるよう工夫している。今年度も同様に継続し、今後はボランティア活動のメニューの一つとして展開していきたい。
- 市・県の「福祉資金貸付事業」については、生活困窮者の相談員と連携し、自立に向けた継続的な支援を実施している。景気が緩やかに回復し、貸付件数も減少している。事業周知は、ホームページや民生委員の定例会などを通じ取り組んでいく。
- 「生活困窮者自立相談支援事業」は、年748件を受け付け、112件の継続的支援を実施。支援実績については、当日資料1の2ページに記載しており、経済的な問題の相談が多く、支援によってみられた変化は就労開始が18.3%、住まいの確保が12.9%など。この事業では、社会福祉協議会の独自事業として、対象者の居場所づくり事業にも取り組み、成果も出ている。今後、就労準備段階の支援として日常生活自立を目指した訓練の場の充

実を進めたい。

- 3ページの「日常生活自立支援事業」については、生活支援員とのマッチングを継続し、23人について生活支援を調整して配置するなど、支援体制の強化、充実に努めている。詳細については、当日資料1の3、4ページに記載している。
- 「成年後見制度の推進事業」は、社協が法人後見として昨年度6人を新規に受任。3月末に14件の後見受任をしている。受任件数の増加に対応するため2名の後見支援員を雇用し体制強化に努めている。
- 「生活支援に係るケースマネジメント事業」は、生活困窮者事業と日常生活事業の中で対応している。関係機関からの相談も増加傾向で、包括支援センター、事業所等との連携したケースカンファレンスを実施し支援に反映できている。民生・児童委員の支援に関しても相談件数がやや増えた程度だが、情報提供や生活情報の確認などケースに応じた連携が増えている。事業や制度の周知、情報提供の充実に努める。
- 「命を守る取組み」で「緊急時連絡カード配布」「緊急医療情報キットの配布」事業は継続した広報活動により市民にも定着している。先の部会でキットの情報等の更新がなされていないとの意見があり、今年度予定されている長寿社会課の保健師による臨戸訪問の際に情報更新の周知も併せて行っていく。
- 当日資料2の「第2期佐世保市地域福祉計画・地域福祉活動計画の成果と課題について」は、これまで5年間の、各事業の大きなくくりの中での成果と課題を記載している。

■質疑

◎西委員長

事務局より説明があった。議題1の事業評価については本日、全体評価まで意見を頂いて決めたい。意見をお願いしたい。

◎川嶋委員

2ページの生活困窮者自立支援事業で、平成29年度の目標値が3件、実績値が112件と数値に差がある。目標値を設定した際に、数値が少なかったのかどうかお聞きしたい。また、達成度が100%になっているが、120%や200%などの記載にはしないのか、記載方法を確認したい。

■事務局（社協：富永）

今現在、生活困窮者自立支援法に基づく事業として実施しているが、計画策定時は、市が実施するかどうか決まっていなかったため、実施しない場合で設定した目標値になっている。そのため数値の差が出ている状況である。達成度については、現在の評価の仕方では、目標値を達成すれば100%という評価の仕方をしている。3期計画の評価を見ていく中でどうするかは、頂いた意見を参考に検討してほしい。

◎西委員長

ほかに意見はないか。「個別支援」について総合評価「B」ということでよろしいか。

◎委員一同

異議なし。

《小地域支援について》

■事務局（社協：富永）

[資料2：第2期佐世保市地域福祉計画・地域福祉活動計画 取組み評価一覧表（案）]

- 5ページの「食事サービス支援」について、平成29年度から1食当たりの助成金を250円から260円に引き上げて取り組んでいる。2つの新規グループが立ち上がり、3グループが活動を停止し、1グループ減となっている。いずれのグループも活動者の減少、代表者のなり手がいないことなどが課題のため、ボランティア人材の養成や衛生管理等に今後対応していく必要がある。サロンと連携し

たグループも立ち上がるなど、新たな展開も見られるため、地域の実情に応じた支援をしていく。

- 6ページの「ふれあい援護ネットワーク」について、災害時避難行動要支援者に対するシステムの運用がスタートし、民生委員等との名簿の共有が進んでいる。一方、名簿やシステムを作って終わるのではなく、関係機関と連携し、情報活用をしていくかが重要。今後、ふれあいネットワークによる見守り活動のあり方等についても検討を進めていく。
- 「ふれあいいいききサロン」について、新たに47カ所設置した。100歳体操の推進や社協職員によるレクリエーション支援、遊具の貸し出しなどにより、サロンの自主的な運営をサポートした。今年度は、好評だったレクリエーション集のパート2を作製し配布する予定である。
- 「地域共生サロンづくり」について、既存のサロンを基盤とした、対象を広げる形で新たにサロンの設置を進めている。まだ、社会福祉法人等との連携した取り組みが十分浸透していない。部会でも多くの世代が集まる場づくりなどが必要との意見が多く、社福法人、企業と連携した取り組みを3期計画に向けて検討したい。

■質疑

◎西委員長

委員の意見を聞き、市に答申する形になる。評価の内容を含め意見があれば、願います。

◎川原ゆ委員

ふれあい支援ネットワークとふれあいいいききサロンについて、短大に介護福祉専攻と保育士養成をしており人材がいるので、ぜひボランティアを呼びかけてほしいと思う。今、積極的に地域に出るスタンスで活動しており、こういう場は学生にとっても大切である。

■事務局（社協：富永）

地域のサロン等で学生に活躍してもらう場を提供できればと思う。

◎西委員長

新しい計画では地域力アップがメインになっているが、ふれあいネットワークは難しいところがあった。ボランティアを活用しながらネットワークの構築が必要と思う。情報の一元化を生かせるようにしてほしい。

「小地域支援」については総合評価「B」ということでよいか。

◎委員一同

異議なし。

≪地域福祉活動について≫

■事務局（社協：富永）

[資料2：第2期佐世保市地域福祉計画・地域福祉活動計画 取組み評価一覧表（案）]

[当日資料2：地区福祉推進協議会取組み状況一覧（平成29年度）]

- 7ページの地区福祉推進協議会の活動支援について、福推協会長連絡会、視察研修、ブロック別研修会等、構成員を対象にした事業を実施している。平成28年度にモデル3地区でスタートしたふくし教育に関する取り組みも、新たに15地区で推進している。福推協を基盤とした住民に向けた地域福祉の意識醸成に関する取り組みが進んでいる。
- 自治協議会と福推協の調整は市と社協で話を進めており、福推協の意見を踏まえた方向性をまとめていく予定である。
- 各地区の取り組みについては、当日資料2を参考にしていきたい。
- 地域活性化モデル事業は黒島地区で予定通り各事業を実施している。今年度、地域通貨の導入に向けて、100名の住民にアンケート調査を実施し、住民の意向を把握している。今年度からはモデル町内を指定し、試験的に

実施していく。

- 在宅リハビリ推進員の養成講座について、平成 28 年度に基礎講座、平成 29 年度は応用基礎講座を実施した。今後の実戦活動については連携会議等の中で助言、専門家のフォローアップ等を受けながら推進していく。
- NPO 法人と連携したソーシャルファームの活動も定着している。今後はオーナー制度の研究など地域活性化につながる取り組みを考えていきたい。モデル事業は今年度で終了し、他地区等への展開も検討する。

■質疑

◎西委員長

今年度終了するモデル事業の今後は、どうお考えなのか。

■事務局（社協：池田）

モデルは今年度で終了だが、今後も継続してやっていきたいと考えている。

◎西委員長

財政的な面は大丈夫なのか。

■事務局（社協：池田）

初年度は、講師の派遣などでお金も必要だったが、定着してきたので、当初予定していた予算はいらない状況になった。

◎西委員長

いい事業なのでぜひ広げてほしい。

「地域福祉活動」については総合評価「A」ということでよいか。

◎委員一同

異議なし。

《その他の取組みについて》

■事務局（社協：富永）

[資料 2：第 2 期佐世保市地域福祉計画・地域福祉活動計画 取組み評価一覧表（案）]

- 9 ページ、施設基盤整備の 2 事業については記載とおりである。
- 社会資源情報の収集整備について、関係団体や機関に社会福祉協議会で運営している「くらしに役立つ『福祉情報ガイド』」の周知活動を行っているが、アクセス数の増加につながっていない。新たな媒体での広報や検索しやすさを検討していきたい。
- 地域福祉活動等についての情報発信の重要性については、部会で出された意見を踏まえ、3 期計画につながる取り組みを考えている。
- 計画推進の成果の評価等について、平成 28 年度に策定した指標を基に、地域福祉の推進の現状を把握するため、地域福祉の推進に関する調査を行っている。1287 件の標本を集計し、報告書を先日の部会で配布した。今後、指標の有効性や調査方法を検証し、精度の高い成果測定の方法、地域福祉との関係性等を研究していく。
- 10 ページのボランティアセンターの運営について、活動希望者とボランティアのニーズをつなぐマッチングを行った。昨年度は 308 名が活動希望を出されている。活動者の増加に対し、依頼件数は増加していない状況である。依頼があったニーズには、98%がマッチングできたが、多くの活動を紹介することが課題である。情報提供に関しても、ボランティアに関する情報提供・発信が十分ではなく、ホームページ等を活用すべきとの意見があり、見直しを考えている。
- ボランティア活動支援について、各種研修・講座を実施している。受講者に対して、継続して活動の案内を行い、活動につながる取り組みを行っている。災害時に対応できるボランティアの養成講座も開いた。
- 11 ページの福祉人材バンクについて、面談会

を増やすなど新たな取組みを実施している。就職者数は目標値を達成したが、大幅な増加につながっていない。介護人材の確保をはじめ、福祉職離れは全国的課題である。今年度、合同面談会の夜の開催、就職後のフォローアップなど支援の充実に努める。

- 災害時における取組みについて、災害時避難行動要支援者というシステムを導入しており、情報を連携して活用できるように努める。
- 福祉避難所について、防災訓練も西地区などで実施し、訓練参加者への福祉避難所の周知に取り組んでいる。
- 12 ページの災害時における取組みについて、災害ボランティアセンターの設置・訓練、市民向け災害ボランティア講演会などを実施している。訓練では、実践講座の受講者や個人登録ボランティアの方にも参加を呼びかけ実施している。今年度も実施して市民の意識啓発に努める。
- 災害ボランティアネットワークについて、昨年度16 団体から今年度は17 団体に増加している。定期的な会議等を行って、顔の見える関係づくりを行っている。訓練等も合同で行い連携を図っているが、今年度からはより実践的な内容で実施していきたい。
- 13 ページのふくし教育に関する取組みについて、階層別ふくし教育に書いてあるように、地域を基盤としたふくし教育の活動に力を入れている。各地区の福祉推進協議会と連携し、ふくし教育の学習会、実践プログラムを18 地区の福推協と連携して実施している。学習会では、社会福祉協議会職員が地域の課題をテーマに寸劇を上演し、どうしたら地域で孤立を生まないかといったことをグループで話し合っている。地域の支え合いの必要について認識を深めることができたと考えている。学校でのふくし教育も徐々に広がり、単発授業ではなく一定時間を確保する学校が増えてきている。
- 14 ページの地域における人材育成について、

中里皆瀬地区での生活支援体制整備事業と、ふくし教育推進のモデル地区としてスタートした3 地区での取組みの中で実施している。中里皆瀬地区ではボランティアによる生活支援のサービスがスタートし、新たな人材の活動がスタートしている。ふくし教育の中でもモデル3 地区で地域住民向けの学習会が広がり、今年度も両事業の中で地域の人材育成に努める。

■質疑

◎迎委員

11 ページの福祉人材バンクについて、求人に対して就職者数は約30%だが、求職者は初めて介護の仕事に就こうとしているのか、あるいは現在働いていて、転職を考えているのか、その割合は分かるか。

既に平成29 年度の目標を超えているが、多くを確保できれば現場は助かると思う。

人材確保に困っている施設は多いので、ミニ面談会等の案内はどのようにすれば分かるのか、教えていただきたい。

■事務局（社協：迎）

求職者について、数字的には出していないが、転職希望者、初めて福祉の仕事に就きたい学生、また異業種からの希望者など、大体平均している状況である。

目標値について、就職者は毎年減ってきている。以前はもっと参加者も多かったが、全国的にも特に若い求職者が少ない状況である。

PRについて、広報紙やホームページ、若者向けフリーペーパーや学校への依頼を通じて周知している。

◎迎委員

就職者が少ない、大きな原因、どういうところがネックになっているのか。

■事務局（社協：迎）

就職しても継続が難しく、1年持たずに短期で辞めるということもある。ある程度大きな事業者であれば研修も充実しているが、小さなところでは即実践というところもあって、勤務時間や給与面で希望とずれがあるのではないか。それ以上に魅力ある仕事であることを説明して、人材確保に努めている。

◎西委員長

介護の人材は全国的にも問題視されている。最近言われているのは、離職率をどう減らすかも人材確保につながる。辞める大きな原因に、会社の理念がしっかりしていないところがある。研修態勢が十分でなく、介護の勉強に結び付かないことが辞める理由の上位になっているようである。社協には離職の分析も含め、人材を紹介するだけでなく、どういう形で就職につなげるかを研究してほしい。

部会で、災害時避難行動支援の体制について、次の計画につなげるためにもデータの一元化を生かせるようにしてほしいとの意見もあった。

ふくし教育では、学校関係も巻き込み、ふくし教育を地域福祉計画の中で、地域づくりをどのようにしていくか考えていきたいという意見があった。

社協もいろいろな取組みをしていると思うが、福祉サイドだけからではなく、学校も一緒になってどう取り組むかが大事だと思う。

■事務局（市：杉本）

学校関係者については、庁内で連携体制が取れていないので、今後、連携をとっていきたい。またふくし教育の推進委員会でも、学校教育との連携について意見が出ている。社会教育課にもその情報は届いている。

◎西委員長

ボランティアに30代以下の参加を促すには、

企業も含めたボランティアを推進すべきではないか。若い学生ボランティアをどう参加させるかなどが課題。

◎杉本委員

多くの学生は、ボランティアの参加を嫌だと思っていない。大学のプログラムの一環でボランティア経験者にはポイントを与え、一定以上になれば単位として認める対応が県立大で行われている。インターネットを通じてボランティアを探すが、検索で見やすいボランティアの募集情報が出てこないことが、一番の大きな問題と考えている。

長崎県の社会福祉協議会のホームページで県内の募集情報を書いてあるが、佐世保市の場合だと、2～3件だったり、たどり着くまでに難しいところがあると思う。佐世保市も県と協力し、ボランティアの情報を出してほしいと思う。

◎西委員長

学生のボランティアを、どんどん増やしていければと思う。

◎榊原副委員長

国際大学ではボランティア活動を授業の一環として行っているが、授業時間の都合で行けるところが限られ、需要と供給のバランスがうまく撮れないところがある。学生の本分は勉強であり、丸一日行けるわけではなく、その辺を改善していくと役に立てるかもしれない。

◎西委員長

意見がなければ、「その他の取組み」については総合評価「B」ということでよいか。

◎委員一同

異議なし。

◎西委員長

その他、事務局からは何かあるか。

■事務局（市：田中）

頂いた意見を踏まえ、評価（案）をあらためて整理し、最終的には委員長一任という形で、答申に向けて作業を進めたい。

◎西委員長

答申に向けての事務手続きについては、委員長と事務局と進めさせていただいてよろしいか。

◎委員一同

異議なし。

（２） 第３期佐世保市地域福祉計画・佐世保市地域福祉活動計画の策定について

①第１回我が事部会・丸ごと部会実施報告

■事務局（市：杉本）

[当日資料１：地域福祉計画推進委員会 各部会実施報告課題の把握 とりまとめ]

[資料１：地域福祉計画推進委員会 部会業務仕様]

- 各部会で各事業の内容について議論していただいた。我が事部会では体系骨子の基本目標３、丸ごと部会は体系骨子の基本目標１の議論をいただいた。内容は、第１段階：第２期計画での実施事業の評価・検証による課題の把握。第２段階：国のガイドライン等との整合性整理・共通課題の把握。
- 議論の結果、各部会から出された課題を当日資料１に記載している。取組み体系骨子案に基づいて取りまとめている。
- 基本目標１「地域の課題把握・解決のための仕組みづくり」の基本項目１「地域の課題を把握する体制づくり」。出された課題は、サロンを活用した場など、いつでも誰かに相談できるという場が必要ではないかというもの。常設化のためのアイデアが求められる。
- 基本項目２「課題を解決するための体制づくりと活動の促進」では、支援が必要な社会的弱者への対応が、町内会だけで支援できるの

か検討する必要がある。

- 基本項目３「情報発信力の強化」では、地域福祉に関するアンケートで地域の情報が入ってこないと思う人が４割いたが、その対応策について各部会での特化した検討が必要ではないかとの意見が出ている。
- 「求められる」と記載しているのは、「委員会および部会で議論が必要だ」と読み解いていただきたい。
- 基本目標３「地域における福祉活動の充実と人材育成」の基本項目１「住民による自主的な地域活動の推進」について、単身転入者は町内会未加入者が多く、その結果、地域活動を知る機会がない。町内会に入らなくても困らないが、地域のつながり、支え合いがあるとの意識が低くなる。一人暮らしでは不安があるが、町内会などで地域とつながることによって安心が得られるため、単身者への加入促進の方策を検討する。大学生など、住所を移していない人についても、町内会に加入ができるというPRをしてはどうかという話が出た。
- 住民主体の取組みの推進として、子ども食堂も全国的に普及している。推進すべきか検討が求められる。多世代交流の場づくりとして、いろいろな世代がテーマに特化して集まることができる場の提供を市、社協が３地区で今回実施した「地域づくり cafe」のようなイベントを地域版で行うことは有効ではないかとの意見があった。
- 企業・法人の参画推進として、企業福祉という考えを持つ。地域貢献が企業イメージの向上につながるとの意識を醸成するために企業にどのようなアプローチができるかを検討すべきだと意見があった。また、若い人の参画のためには企業を巻き込んだ地域活動の検討が求められるといった課題が挙げられた。
- 基本項目２「ボランティア・市民活動の推進」では、ボランティアを一括管理する機能強化

を行い、特定の人に負担がいかないように、いろいろな人がいろいろなボランティアに参加できるようにする必要がある。社協のボランティア情報が見にくく、情報更新されていないなど情報量が乏しく改善が必要である。ボランティア参加者の拡大へ30~50代の若い人材を引き込む方策が求められる。

- 若い世代は参加したくないのではなく、機会を知らないのではないかという事も考えられ、大学の協力も必要である。大学生のボランティアの参加意識が上がる一方、災害ボランティアをする際の課題として準備不足、知識不足等が課題に挙げられた。
- 基本項目3「共に生きる地域づくりの推進」では、ふくし教育の充実として、学校を巻き込む方策の検討が必要と課題に挙げられている。当事者意識醸成として、「地域づくりcafe」のように幅広い年代が顔を合わせる企画が有効ではないかとの意見があった。
- その他の分野にかかる課題として、市民後見人の適切なニーズについて把握し、今後の検討が求められるとの課題がある。
- 在宅医療と介護の連携として、地域包括支援センターと生活支援コーディネーターの連携を進めていくことが必要である。
- 災害時・緊急時に対応する体制整備として、災害時避難行動要支援者制度への同意が得られていない人が多いため、呼びかけ周知が求められる。災害時避難行動要支援者システムの具体的な運用、実際の避難行動につなげる為の検討が求められ、第3期計画にどう盛り込むかを検討していくべき、また個別避難計画の作成促進が求められているといった課題がある。
- 災害時・緊急時の体制の充実については、地域における災害対応について、町内会単位での活動が基本だが、災害の際の対応について町内会への説明が乏しい。行政の災害対応は横のつながりでの対応が求められる。救急医療キットと緊急時連絡カードは開始から時

間が経過し、現状に合った事業に見直すことが必要との意見があった。その他については、人口減や介護人材不足というところで意見があった。

- 今後の部会では課題に基づいた部分での既存事業の重点項目化、新規事業の提案などをしていただく。持ち帰って内容を確認していただきたい。

■質疑

◎西委員長

先ほどの説明について、意見があれば、あらためて伺いたい。

◎川原委員

先日の大雨のとき、高台にある長崎短大に相浦川近隣住民が避難してきたため、炊き出しを行ったが、私たち自身が避難所になっていることを知らないことも問題である。

◎西委員長

住民は知っていたのか。

◎川原委員

知っていた。市職員に朝までいてもらい、そのシステムを初めて体験し、いろいろな形で守られていると実感した。

◎西委員長

学校、福祉施設も含めて住民の避難所を決めているが、災害が起こったときにどう動くか、双方が情報を知っているのか。

■事務局（市：辻）

避難所は市の地域防災計画で決められているが、これまでそこまでの避難がなかったのではないかと思う。

避難所には、第1~第3配備まで市職員を配置する段階があり、今回は、第1配備は配置したが、第2配備の短大、道の駅には、先に市民が

避難したため、慌てて市職員を動員配置したところである。今回、避難所が適正かどうかを含め、事例が具体的に見えたこともあり、検討しなければいけないということを報告したい。

◎西委員長

災害は自分のことのように考えなければならなくなった。一番問題なのは、災害時避難行動要支援者をどうするか。特にこの委員会の役割として強いと思う。そういう問題も含めて、次の計画では具体的な行動ができるものを策定していかなければならないと思う。

◎迎委員

在宅医療について、問題点を絞って医療政策課と医師会で何年もかけて議論し、煮詰めてきているが、結論が出た部分に関して周知できるようなシステムができればいいと思う。

◎西委員長

医療と介護の連携は介護保険が始まった以前から言われており、行政も大きな課題として取り組んできている。介護保険法の見直しの中でも、地域包括のシステムづくりをしていき、医療、介護、福祉の連携を含めて包括支援システムをつくっていかなければいけないということが計画の指針として上がってきている。それぞれの専門家の意見を聞きながら、医療と介護の連携の必要性についても議論を進めていかなければならない。

◎村山委員

援護が必要な人がそれぞれの地域にいたとしても情報が公開されておらず、障がい者相談員にもそういった情報が届いてないため、改善が必要である。

◎林委員

福祉は民生委員がするものと考えているところがあり、町内会長との情報共有があまり進ん

でない。町内会長をリーダーにみんなできちんと福祉の話ができるようならなければいけない。

町内会の資源回収で子どもを呼んだところ、「邪魔だからどきなさい」と子どもをしかる場面もあった。そういうところで町内会長の意図が通じなかったりしており、地に着いた福祉を実現するためにも細かな連携が必要である。

◎西委員長

現場からの貴重な意見であった。地域といいながら、民生委員、町内会長を知らないという実態があると思う。その中で地域づくりをどうしていくかが大きな課題である。

◎杉本委員

災害時の要支援者については、高齢者や足の不自由な人に比べ、知的障がい者や聴覚障がい者への気付きは難しく、避難による環境変化で知的障がい者が混乱を来すことがある。災害時に誰が知的障がい者の世話をするのか決めておいたほうがいいと思う。

◎西委員長

災害時の要支援者は大きな課題であり、そのときに出てくるのが、対象者の情報をどこまで知らせるのか、どの人が知っておかなければいけないのかという問題である。現実的には知っておかないと動けないため、地域の中で情報を守りながら、みんなで助け合うものをつくっていかなければならないと思う。

②座談会「地域づくり cafe」実施報告

■事務局（社協：山本）

[当日資料2：「第3期地域福祉計画・佐世保市地域福祉活動計画」策定にかかる座談会（ワークショップ）実施報告]

○ 第3期計画策定にあたり、医療や福祉の従事者から、現在の制度やサービスで対応できない困り事、地域福祉を推進していくに当たっ

での連携、サービス開発などについて話し合うため「地域づくり cafe」と題して座談会を市内3カ所で開催した。社会福祉士や精神保健福祉士、介護支援専門員、保育士、理学療法士・作業療法士等のセラピスト、民生委員などが参加し、年齢は20代から幅広く参加した。

- 「佐世保市が『さらに住みやすい地域』になるために」をテーマに、「様々な課題に対応した“相談体制・連携”について」など3つのキーワードに沿って、ワールドカフェ方式でワークショップを行った。
- ワークショップの流れは、当日資料2の2ページに記載している。
- 会場では音楽を流し、ゆったりとした環境の中で話し合い、いい意見が多く出た。
- 中部・北部・南部に分け、計83名が参加した。
- 中部ブロックの主な意見は、相談窓口の設置、顔見知りの関係づくりなどつながりの構築に関する意見が多かった。
- 北部ブロックの意見は、相談窓口の設置、「cafe」のような専門職が集まれる座談会の開催、地域の居場所づくりなど、北部ブロックでは住民や専門職同士がつながりを持ちたいとの意見が出て、ブロックによって特徴が出ている。
- 具体的な案として、プロジェクト「ピンチはチャンス!! 地域のみんなで助け合おう」は、困る前から地域の人々とのつながりを大切にし、顔の見える関係をつくっておくという意見。笑顔であいさつしたり、地域イベントに顔出しすることでつながりをつくってはどうかという意見だった。
- プロジェクト「多職種で地域巡り活動」は、小さな地区に分けて、民生委員やMSW（医療ソーシャルワーカー）、施設職員、役所でチームをつくり、一人暮らしなどが孤立しないように声かけするもの。訪問が困難な場合、公民館で話し合ったらどうかという意見が

出た。医療と介護の連携、多職種の連携にかかる内容になっている。

- プロジェクト「地域サロン活性化計画」は、サロンに対して今まで以上に病院や市、包括支援センターが参画することでより良いサロン活動になるのではないかと意見だった。「地域づくり cafe」のような座談会を実施することで地域の施設が関係性をつくることができ、プロジェクトの精神を推進していくことができるという意見があった。
- 我が事部会で、地域の貢献として仕事や学校の時間の5%を地域活動の時間に充てるという意見があった。従来、仕事や学校に行っていない時間をボランティア活動に充て地域貢献していたが、この方法だと多くの人材が地域に貢献でき、企業、学校、地域側それぞれにメリットがあるのではないかと。企業も地域に密着した関係を築くことで売り上げにもつながる。学校側も学生に社会経験を積ませ、地域貢献をアピールすることで学生の確保にもつながる。地域としては担い手不足の問題を解決できるので、地域全体で効果が期待できるという意見もあった。3期計画体系骨子案に対応した意見が多くあり、計画に反映できるのではないかと考えている。

■質疑

◎西委員長

ワークショップの実施報告について説明があった。報告をよく読んで、次の部会で意見を出してほしいと思う。

専門家の横のつながりの関係の地域カフェを開きたいという話があった。これまでは高齢者関係、障がい者関係の職種といった縦割りの集まりが多かった。地域の中で横のつながりを持った地域カフェを開けばもっといい意見が出るだろうと、個人的にはうれしい考え。

◎川嶋委員

中部地区のカフェに参加したが、地域によって課題が違ってくる。カフェでいろいろな話をする中で、顔が見える関係づくりもでき、課題の発掘、解決策も意見として出ており、こういうものが各地域で広がっていけば地域づくりで役に立つのではないと思う。

◎林委員

地域づくり cafe のいいところはいろいろな職種の人と話ができることである。しかし、残念なことにその人とはその会議でお別れになり、次回相談しようと思っても連絡先も分からない。地域のいろいろなノウハウを持った人と知り合うことができたなら、それを生かせる方法があってもいいのではないかと思う。即戦力となる人と知り合える場を活用する方法を考えてほしい。

◎村山委員

私の住まいの近くでは、地域住民で側溝掃除を20年近く続けている。終わった後、参加者で飲食し、親が亡くなり子の世代の参加もある。この集まりで地区の班もうまくいっており、清掃を通じて近所と触れ合う活動ができればいいと思う。

◎土井委員

町内会長を務めているが、今回の座談会は cafe をやって終わりかとの印象がある。台風時に高齢者、障がい者には避難先を世話したり、パンを配ったりしている。公的サービスが付いていない人で、避難を敬遠する人をどうするかという問題があり、このことは行政が関わらないと難しいところである。困っている高齢者、障がい者に対して具体的なノウハウが必要という印象である。

◎西委員長

今回の計画は、国が新たに位置付けを行い、地

域福祉を推進する多様な共同運営という言葉を使っている。これまでは住民主体だったが、今回は専門家の意見も取り入れてほしいと、これまでになかった試みである。行政も専門職の意見を聞くワークショップを計画したのだと思う。これが1回で終わるのではなく継続して開き、突っ込んで話す機会をつくってもらえばいいと思う。

■事務局（市：杉本）

地域住民がどういった役割で地域づくりにかわっていただけるのかを具現化していくことが、第3期計画の目的になる。そのため、活躍している専門職が地域でどういった活動をしていきたいのか、活動するためにどういう人とつながっていく必要があるのか、住民個々が何ができるのか、意見を聞くために今回は行政に対する要望ではなく、地域住民が自ら活躍できる策はどのようなものか、地域福祉をどう推進していくかを考える視点で開催した。

◎榊原副委員長

参加者は、医療・福祉に従事しているとなっているが、医師や看護師、薬剤師はたまたま入っていないのか、福祉関係に限定したのか。医療と福祉になると、医療・薬なども関係してくるかどうか。

■事務局（社協：冨永）

今回、医師や薬剤師への呼び掛けはできていない。社会福祉、精神保健福祉士については、病院の医療連携室やMSW（医療ソーシャルワーカー）に声をかけ、医療機関の意見は出してもらっている。

◎西委員長

医療機関のソーシャルワーカーも入っているのか。薬剤師、看護師は入っていないのか。

■事務局（冨永）

そうである。

◎榊原副委員長

災害時に医療関係者が必要だが、高齢者は薬の服用や入手に関して薬剤師は必要である。その辺を巻き込んでほしい。

◎林委員

ワークショップの取りまとめは参加者に配布してほしいと思う。聞くだけではなく、意見が掲載されて、そこから輪が広がるのではないかな。

◎西委員長

薬剤師を見て思うのは、一人暮らしに対して「どうですか」と声をかけ、コミュニケーションをよく取っていることである。薬剤師も地域の中で自分たちが役立てばいいと感じている。事務局でも課題の一つと考えてほしいと思う。ただ今の説明について質疑を打ち切りたい。その他で事務局から何かあるか。

■事務局（市：杉本）

今後の計画策定のスケジュール、部会の進め方について説明する。第2回の部会開催は、丸ごと部会は8月22日（水）午後6時半から、すこやかプラザ6階の研修室2で、我が事部会は8月21日（火）午後6時半から、6階の研修室2の予定となっている。

課題の把握、ワークショップ実施報告については今後の部会の議題に使用するので、持ち帰って一読をお願いします。

第2回の部会は、委員から出された課題に対する重点項目を検証し、それに対応する新規事業または既存事業の重点化等について議論してもらう。ワークショップで専門職から出た事業提案を参考に、計画の重点事業として挙げられるような提案を頂きたい。

◎西委員長

当日資料1、2、ワークショップの実施報告以外でも、平成29年度事業に対する意見を考え、

次回の部会で意見を交わしてほしい。次の9月の部会で事務局がある程度のまとめとしたいという運びである。

◎林委員

開催時間は6時半でいいのかな。

■事務局（市：杉本）

事前に昼から夕刻までの時間帯でアンケートを採り、最も参加者が多い時間帯で設定した。

◎村山委員

資料の大きさをそろえてもらって整理しやすい。

■事務局（市：杉本）

今後、適切に対応したい。

◎西委員長

以上で終了したい。

■事務局（市：田中）

第8回地域福祉計画推進委員会を終了する。

■ 閉 会